

構成員からの意見概要

2015年12月21日

地域における人とくらしのワーキンググループ事務局

意見聴取の目的

科学技術イノベーション総合戦略2015において特定された11システムの1つである「地域包括ケアシステムの推進」の議論の過程において、対象としている予防・医療・介護の現場の意見を十分にくみ取る仕組みがなく、必要な施策が提案できなかった部分がある。そのため、地域における人とくらしのワーキンググループを設置し、総合戦略2015の重要課題施策の進捗を確認しつつ、各種施策のブラッシュアップアップを目的に、構成員の皆様から意見を伺いました。

この資料では皆様から頂いた意見を共通項にまとめ、大まかに分類分けして示しています。

質問

1. 「地域における人とくらし」の観点で、医療、介護、健康といった人へのサービスに対して、ICT、街づくり、支援技術等の科学技術における課題・対策について
2. 「地域における人とくらし」の観点で、上記課題、対策を解決するために、ICT、街、技術等において、今後構築が必要と思われる社会基盤（行政、民間等）について
3. 上記課題、対策等を踏まえ、「地域における人とくらし」の観点で、若者、女性、障害者、高齢者等の2035年（20年後）での社会参画（社会活動）等について理想とする社会像について

構成員意見概要 1/5

質問1. その① 医療サービス

赤字: 科学技術により広く解決可能と想定される課題・対策

分類	課題 / 対策
一般人による医療	・ 医療支援システム開発 ・ 医療・服薬の専門家とのインタラクションによる支援 ・ 患者侵襲性が低く、検体採取に専門的技術を必要としない検査法
病診連携・かかりつけ医	・ 病診連携推進 ・ かかりつけ医制度の導入 ・ 医療従事者との信頼形成、
医療情報インフラ	・ 医療情報従事者の情報格差解消 ・ 医療情報のインフラ ・ 医療番号付与とICTの整備による効率的医療の実現 ・ 医療ビックデータ解析機関の設置 ・ 地域での感染症・疾患情報収集システム ・ 予防介入、予防活動普及啓発のための発生状況共有と予測システム
遠隔医療	・ 遠隔医療の推進 ・ 遠隔での健康状態モニタリング ・ 異常発見システム
医療資源の利活用	・ ドクターヘリの整備 ・ 救急搬送システムの効率化 ・ 緊急初期対応 ・ ICTを用いた医療資源の利用状況のリアルタイム共有 ・ 医療従事者の知識・技術の向上
その他	・ 患者の移動を安全・省力的、簡便に行える低コスト製品の開発

構成員意見概要 2/5

質問1. その② 介護サービス

赤字: 科学技術により広く解決可能と想定される課題・対策

分類	課題 / 対策
ロボット等による介護の支援・負担軽減技術	- 要介護者本人の活動支援 - 介護作業負担低減のための技術開発 - 患者の移動を安全・省力的、簡便に行える低コスト製品の開発 - 在宅で利用できる喀痰持続吸引器 - 介護予防支援技術(モニタリング、意欲向上、簡便操作、安全性)
認知症対策	- 認知症対策 - 認知症患者のノーマリゼーション(健常者の生活条件に近づける)と事故の回避
Smart City, シェアハウス、地域性のある街づくり	- Smart City、人口集約 - シェアハウス - 地域での物流等のインフラ整備 - 地域性を加味した介入及び街並みなどの再構築 - 限界集落への対応
介護情報と医療の連携	- 介護情報の統合による医療との連携 - 画一的でなく個々の状態に即した介護・医療の総合的支援
介護従事者確保対策	- 介護従事者待遇改善 - 介護従事者の効率的運用 - ICT等を用いた教育システム - 介護従事する外国人のコミュニケーション能力向上システム・ツールの開発 - 在宅勤務のインフラ構築、人事評価方法の確立

構成員意見概要 3/5

質問1. その③健康サービス

赤字: 科学技術により広く解決可能と想定される課題・対策

分類	課題 / 対策
セルフケアの増進とそのための情報共有	- セルフメディケーションの充実 ✓ 健康ケアのための情報提供 ✓ 認知症を増やさない医療情報共有システム - 健診・検診の有効性を示すデータの発信 - 未病概念の浸透 - 既存インフラ(フィットネスクラブ等)の利活用 - ツーリズム・二所住居との連携 - 情報提供のためのインタラクティブなインターフェースの開発
医療・介護等データの一体化	- センサ機器による検診に代わるデータの収集とデータ共有システム - 感染症情報などの共有に関する国民理解とルール作り - 医療・介護・健康に関するデータの一体化のための情報環境・制度の整備
医療・介護等の人材確保	- 過疎地での医療・福祉人材の確保 - 高齢者を孤立させない介入支援や仲介サービス
各種データに基づくカスタマイズされた医療	- 個人にカスタマイズされた健康増進策の伝達 - 個別化された医療 - 介護・医療・健康増進が統合的に最適化され提供される社会
その他	- 健康増進・疾病予防をつかさどる国立機関の設置 - 在宅医療・ケアシステムと病診連携 - 物流・物販のインフラ整備 - 健康増進、病気・介護の予防技術の開発 - AI・ロボットの導入による雇用消失に対応する新分野での雇用創出とための技術習得のための学びの場

構成員意見概要 4/5

質問2. 構築が必要な社会基盤

赤字: 科学技術により広く解決可能と想定される課題・対策

分類	社会基盤
医療・介護等の情報共有ネットワークの構築とインフラ整備	- 情報網の整備 - データ共有 - 信頼に基づくデータ提供の仕組みと社会への適切な還元
個人情報セキュリティ	個人情報セキュリティの確保
統合した情報の利活用	健康増進・疾病予防の具体的提案
介護サービス技術の発展、兼業可能な介護体制の整備	- 介護負担を軽減できる技術開発 - 勤務体系や評価体制の整備
民間サービスを活用した公的サービスの強化	- 公的ケアハウス - 健康保険制度の見直し - 市民教育インフラ - 縦割り行政を超えた包括的な医療・介護・健康施策の検討・制度設計を行う部署の設置
その他	- 官民一体となった地域活性化のための技術開発と体制構築 - 高齢者の雇用促進 - 地方でのインフラ維持 - 緊急通報・初動対応体制の整備 - 有限の人的資源で医療や介護の質を最大限に発揮できるように支援する技術開発の考え方の共有 - 使いやすくバリアフリーな街・駅づくり

構成員意見概要 5/5

質問3. 2035年(20年後)の社会参画の理想像

分類	理想像
高齢者	・ 高齢者になっても緩やかなペースで社会の中で機能を果たしている ・ 高齢者が積極的に社会参画している ・ 高齢者がやりがいのある活動ができるコミュニティで暮らしている ・ 健康年齢が寿命である
障害者	・ 障害者の一人暮らしが可能になっている
子育て	・ 家庭内での役割が男女均等であり女性が積極的に社会活動を行っている。 ・ 大都市圏における育児インフラが充実している ・ 出産・育児をしながらも社会(職場)復帰できる支援体制が整っている
地方・地域	・ 限界集落が段階的に解消しており、人口集約ができている ・ コンパクト都市が実現されている
若者	・ 若者は今と変わらず生活している
介護	・ 老人様の施設が充実し、介護負担が軽減され介護世代の社会活動が可能である
全般	・ 誰もがその能力に応じて社会貢献できる可能性がある ・ 多様なライフプランを持つ老若男女が自律し、充実した生活を送っている ・ 定時に退社し、家族と過ごしたり、趣味やボランティアの活動を行っている ・ 本人や親近者による初歩的医療・介護・健康増進が行われ、社会サービスが効率的に運営されている ・ 医師と患者の信頼関係が構築され、「かかりつけ医」も最新の医療知識と診断力を持ち、適切な指導、治療ができている ・ 地域で死ぬことに対するサービス基盤が整っており、社会不安が高くない ・ 少数事例の副作用やアレルギーのある医薬品でも安心して服薬できる。 ・ 個人情報適切なトレーサビリティと十分な安全性の上で扱われている。